

酪農教育ファームの教育効果に関する基礎的な研究 ： 酪農体験活動を行った子どもの追跡調査のための 質問紙法の開発

著者名(日)	石井 雅幸, 石山 理恵, 木下 博義
雑誌名	大妻女子大学家政系研究紀要
巻	52
ページ	107-119
発行年	2016-03-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1114/00006347/



酪農教育ファームの教育効果に関する基礎的な研究 — 酪農体験活動を行った子どもの追跡調査のための質問紙法の開発 —

石井雅幸¹⁾・石山理恵²⁾・木下博義³⁾

¹⁾大妻女子大学家政学部児童学科, ²⁾24 年度大妻女子大学児童学科, ³⁾広島大学大学院教育学研究科

A Basic Study on Education of Milkfarm Significance Carrying Out an Experience-Based Activity — Through the Development of the Questionnaire Method to Investigate Education of Milkfarm —

Masayuki Ishii, Rie Ishiyama and Hiroyoshi Kinoshita

Key Words: 酪農教育ファーム, 教育的効果, 質問紙法

要旨

子ども時代、または、以前に酪農体験活動を行った人を対象としてアンケート調査を実施し、現在の自分は過去の酪農体験活動を行ったことがどのように影響しているのか、また、どう活かしているのかを「食と命」、「キャリア (生き方)」の面から調査し、酪農体験活動の教育的効果を明らかにする。そのために、酪農体験活動が食、命、生き方の視点からいかなる意義があるのかを調査する質問紙を開発することを目的とする。そこで、2012 年にこれまでに酪農体験活動を行った経験のある人と酪農体験活動を行ったことがない人を対象に開発した質問紙を使って調査を行った。その結果、牛乳への意識、牧場や乳牛への意識に酪農体験活動の経験者と未経験者に違いが見られた。

1 問題の所存

酪農教育ファームが誕生し、牧場が教育の場となる酪農体験活動が始まってから 10 年以上が経過した。その間に、中央酪農会議内の酪農教育ファーム推進委員会での活動を中心にして、実践報告も出され、それらの分析からも酪農体験活動では、様々な教育的効果が報告されている (例えば羽豆 2008、伍代 2000)。鈴木 (2013) は酪農家と乳牛との触れ合いは、児童生徒の「自尊感情」や「自己効力感」を育成するのに効果的であること、「生命尊重」の価値に基づく判断力の育成に効果的であるということ報告している。木下 (2009) は、酪農教育ファームを通して子どもに育成される力を質問紙を

通して調査する方法を見いだしてきている。

また、酪農教育ファームの目的である「食といのちの学び」は、体験したり学んだりした直後だけではなく、ある程度長期的・継続的なものになっていくことが求められる。体験前後の体験者の気持ちや行動の変容だけでなく、それが継続されているのか。また、10 年ほど前に体験したことがどこまでその後の生活等に生かされているのかを明らかにすることは、酪農教育ファームにおける体験活動の意義を明らかにして行く上では重要であると考えられる。また食と命についてだけではなく、体験者の価値観、生き方、農業観、仕事観など多面的効果があると考えられる。

そこで、10 年以上が経過し、10 年前に体験をした子どもたちのその後に関する調査はこれまでは検討されていない。また、酪農体験活動の意義を多面的に調査する質問紙も開発されてこなかった。

2 研究の目的

酪農教育ファームが誕生し、牧場が教育の場となる酪農体験活動が始まってから 10 年以上が経った。酪農体験活動には様々な教育的効果が潜んでいると言われる。しかし、その場限りの感動や一時的な変化としてではなく、児童のその後に影響をもたらすことが、酪農体験活動では見いだされることが考えられる。そこで、子ども時代、または、以前に酪農体験活動を行った人を対象としてアンケート調査を実施し、現在の自分は酪農体験活動を行ったことでどのような影響を受けているのか、また、どう活かしているのかなどを「食と命」、「キャリア (生き方)」

の面から調査し、酪農体験活動の教育的効果を明らかにする。そのために、酪農体験活動が食、命、生き方の視点からいかなる意義があるのかを調査する質問紙を開発することを目的とする。

3 研究の方法

(1) 質問項目の作成

質問項目を作成するにあたり、酪農体験活動の経験の有無及び回数、体験内容に、酪農体験活動に関するイメージ及び酪農体験に関する考えを問う項目に違いがあるのではないかと想定した。

「酪農教育ファーム」の活動で重要視されている「食といのち」に焦点を当て、食に関しては酪農体験活動で一番身近な存在である牛乳、命に関しては動物への親しみの感情が生命を大切にす心へつながるのではないかとこの考えのもと、牛乳及び動物が好きかという項目を設けた。また、木下 (2009) が開発した質問項目も加えた質問紙を作成した。

回答項目は五段階尺度 (非常にそう思う・そう思う・どちらとも言えない・あまりそう思わない・全くそう思わない) を用いた。イメージを問う質問は肯定的なイメージ項目及び否定的なイメージ項目を入れイメージに質問項目からの偏りが生じないようにした。

(2) 質問項目の検討

筆者は酪農体験活動による長期的な効果を期待し、酪農体験活動を行ってから約 10 年経った人、または以前に酪農体験活動を行った人へアンケート調査を行うことにした。

開発した質問項目の予備調査を行うために 2012 年 6 月に都内 O 女子大学 1 年生、4 年生 96 名を対象に予備調査を行い、質問紙の統計的な妥当性と信頼性を検討した。また、質問項目の内容的な妥当性を小学校教師歴が 10 年以上の教員 3 名に依頼し検討を行った。

本調査の対象は鹿児島県 Ki 牧場で 10 年前に酪農体験活動を行った人、東京都 Ko 牧場で小学校の総合的な学習の時間に酪農体験活動を行った人、そして現在も継続して 1~2 ヶ月に 1 回酪農体験活動を行っている人である。同時に広島県内の H 大学 1 年から 4 年の 61 名にも同じ質問紙で意識調査を行い、酪農体験の有無で違いがあるのかを比較し、質問項目の判別性を検討した。

(3) 判別性の検討

開発した質問内容に対して回答者が意識として

持っていると言えるのか否かは各質問項目に対して肯定的な反応をした人数と否定的な反応をした人数の差として現れるといえる。また、酪農体験活動を行うことによる効果は、体験者と非体験者が各質問項目に対する肯定的な反応と否定的な反応をした人数分布の差として現れるといえる。そこで、体験者と非体験者それぞれの肯定的な反応と否定的な反応をした人数分布に差が生じるか否かによって体験者と非体験者が判別できる質問項目であるのかを判断することができると考えた。そのために、各質問項目に対して肯定的な反応をする人数と否定的な反応をする人数の差をみていくことにした。また、酪農体験活動体験者と非体験者との間で各質問項目の肯定的な反応をした人数と否定的な反応をした人数との間に有意な差が見られるのかどうかによって、質問項目の判別性をみることにした。

4 結果

予備調査の結果を因子分析にかけ同じ因子に入る質問項目を削除するなどして、項目数を減らした。また、二重質問となっていたものを 1 つずつに分けるなど項目を検討し、分析・検討後の質問項目数は 84 から 59 に減らした。

削除項目及び追加項目は表 1 の通りである。

(1) 開発した質問紙の検討

回答者は以下の通りである。() はアンケートを郵送した人数である。

- ア Ki 牧場での体験者: 14 名 (148 名)
 - イ Ko 牧場での体験者 (授業): 20 名 (72 名)
 - ウ 現在も継続して牧場での活動を行っている人: 6 名
 - エ H 大学の学生: 61 名 計 111 名
- なお、エの 111 名中、酪農体験活動の体験者は 67 名、非体験者は 44 名であった。

(2) 開発した質問紙の妥当性や信頼性の検討

作成した質問紙は、酪農体験活動を行った経験のある人と経験したことがない人の両者を対象とした質問項目となっている。そこで、質問項目の因子を探るために、「1 牛乳のイメージ、2 乳牛についてのイメージ、3 酪農家についてのイメージ、4 酪農の仕事についてのイメージ、5 今後のこと 6 自分に生かされる」の 25 の質問項目の結果で因子分析を行った。その結果が表 1 である。また、それぞれの質問項目の信頼性を検討するために、信頼係数をそれぞれ算出した。信頼係数は、因子毎並びに、質問

項目全体に分けて信頼係数を算出した。その結果が表 3 である。

表 2 の因子分析の結果から、以下のことがいえる。

想定していた質問項目の下位カテゴリーとして、「1 牛乳についてのイメージ」「2 牧場についてのイメージ」「3 乳牛についてのイメージ」「4 酪農家についてのイメージ」「5 今後について」「6 自分に生かされる」の 6 つを想定していた。因子分析を行った結果、表 2 のように 6 つの因子に分かれ、その 6 つは以下のようにおおよそ想定した因子の中に収まったと判断できた。なお、表 2 の中ですべての項目に網をかけた項目番号 22, 24, 28, 30, 36 は、極端に尺度値 1 あるいは 5 の度数が多い、天井効果や床効果が見られたために分析から以後除外して扱った。

信頼性に関しては、表 3 のように因子毎、全体いずれも信頼係数が 0.7 以上であったことから、信頼性が高いと判断した。また、小学校教員経験者に依頼して行った質問項目の内容的な妥当性に関しても妥当性がある質問項目であると判断された。

そこで、酪農体験活動体験者と非体験者とで各質問項目への反応の違いが見られるのかどうかをみた。

(3) 判別性の検討

3 方法の (3) 判別性の検討の項目で論じた手続きに従って、以下のことを行い、判別性の検討を

行った。ここでは、回答項目は五段階尺度（非常にそう思う・そう思う・どちらとも言えない・あまりそう思わない・全くそう思わない）で反応させた回答を大きく肯定的な反応、否定的な反応、中間的な反応の 3 つに圧縮できるといえる。そこで「非常にそう思う」と「そう思う」を肯定的な反応、「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」を否定的な反応、「どちらとも言えない」を中間的な反応としてし、肯定、否定、中間の各尺度への人数分布を見ていくことにした。

体験者と非体験者との間における各質問項目への肯定的・否定的・中間的な反応への人数分布の違いをカイ二乗検定で検討した結果が表 4 である。カイ二乗検定を行った結果危険率 5% で体験群と非体験群とで有意な差がみられた項目を濃い網掛けをしたのが 11, 12, 13, 15, 19, 20, 33 の各質問項目であった。また、肯定、否定、中間の人数分布に差が見られる項目がいくつか見られたことから危険率 10% で体験群と非体験群とで有意な差が見られた項目として薄い網掛けをかけた 17, 24, 37 の 3 つの項目があげられた。

体験者と非体験者との判別は、肯定的な反応をした人数と否定的な反応をした人数の差が見られる。そこで、危険率 10% で体験者と非体験者で有意な差が見られた質問項目に関しては、体験群と非体験群とで各質問項目への反応に差が生じた項目と想定できる。これらの質問項目での肯定的な反応をした

表 1 予備調査と本調査で活用した調査項目の対比

予備調査	本調査
1. 経験回数 (1 回/2 回/3 回/4 回/5 回以上)	1. 経験回数 (なし/1 回/2 回以上)
なし	2. 一番印象に残っている体験
なし	9. 牛乳・水・お茶・ジュース・野菜ジュースの中で何を選ぶか。
なし	10. 牛乳を飲む頻度
9. 牛乳は「あたたかい」と思う。	11. 牛乳を飲むと「温かさ」を感じる。
10. 牛乳は「やさしい」と思う。	12. 牛乳を飲むと「優しさ」を感じる。
11. 牛乳は「あたたかい」と思う。	削除
12. 牛乳は「こちよい」と思う。	削除
13. 牛乳は「くさい」と思う。	削除
14. 牛乳は「不快」だと思う。	削除
15. 牛乳は「なめらか」だと思う。	削除

予備調査	本調査
16. 牛乳は「冷たい」と思う。	削除
17. 牛乳に「愛」を感じる。	削除
20. 牧場は「明るい」と思う。	削除
21. 牧場は「自然豊か」と思う。	削除
22. 牧場は「こちよい」と思う。	削除
23. 牧場は「汚い」と思う。	削除
24. 牧場は「落ち着く」と思う。	削除
25. 牧場は「遠い(行きにくい)」と思う。	削除
26. 牧場は「なくなってほしくない」と思う。	削除
27. 牧場は「暗い」と思う。	削除
31. 乳牛は「凶暴」だと思ふ。	削除
32. 乳牛は「かわいそう」だと思ふ。	削除
33. 乳牛は「くさい」と思う。	削除
34. 乳牛は「温かい」と思う。	削除
35. 乳牛は「優しい」と思う。	削除
37. 酪農家は「やさしい」と思う。	削除
38. 酪農家は「おだやか」と思う。	削除
39. 酪農家は「こわい」と思う。	削除
40. 酪農家は「きびしい」と思う。	削除
41. 酪農家は「おもしろい」と思う。	削除
42. 酪農家は「えらい」と思う。	削除
45. 酪農は「大変」と思う。	24. 酪農の仕事は「大変」だと思ふ。
46. 酪農は「難しい」と思う。	25. 酪農の仕事は「難しい」と思う。
48. 酪農は「楽しい」と思う。	26. 酪農の仕事は「楽しい」と思う。
49. 酪農は「やりがいがある」と思う。	27. 酪農の仕事は「やりがいがある。
なし	(28. 29. 「子ども時代に酪農体験活動をすることに意味があると思う。」「将来自分が親になった時、子どもに酪農体験活動をさせたいですか。」に対して) (全員) それはなぜですか。
(全員) 54. 酪農体験活動は「牛や自分の命(生きるということ)を実感する」と思う。	削除
(全員) 56. 酪農体験活動は「牛乳やバターなどがどこから来るのか知ることが出来る」と思う。	削除
(全員) 58. 酪農体験活動は「食べ物の大切さを考える事が出来る」と思う。	削除
(体験者のみ) 77. 「食べ物を出来るだけ残さずに食べるようにしている。」	(全員に) 30.
(体験者のみ) 78. 「食べ物に感謝をして食べている。」	(全員に) 31.

予備調査	本調査
(体験者のみ) 79. 「自分たちの生活のために働いている人たちに感謝をしている。」	(全員に) 32.
(体験者のみ) 80. 「牛や動物に親しみを感じる。」	(全員に) 33.
(体験者のみ) 81. 「人間や動物、虫等、生きているものの命を大切にしている。」	(全員に) 34.
(体験者のみ) 82. 「自然体験が好き。」	(全員に) 35.
(体験者のみ) 83. 「自分で体験して感じ、考えることが大切だと思う。」	(全員に) 36.
(体験者のみ) 84. 「動物や人間に優しく接するようになった気がする。」	(全員に) 37.
なし	(全員)「体験後、大切にしていること(または、あなたの価値観)を教えてください。」
(体験者のみ) 61. 酪農体験活動をしたことで、「動物も人間も生きている」と実感した。	(体験者のみ) 38. 酪農体験活動をしたことで、「牛の命(生きているということ)を実感した。」
なし	(体験者のみ) 39. 酪農体験活動をしたことで、「自分の命(生きるということ)を実感した。」
(全員) 55. 酪農体験活動は「五感を感じられる」と思う。	(体験者のみ) 41. 酪農体験活動をしたことで、「五感をつかった体験ができると思った。」
(体験者のみ) 63. 「牛乳やチーズなどは乳牛からうまれりと知った。」	(体験者のみ) 42. 酪農体験活動をしたことで、「牛乳は乳牛からうまれりと改めて実感した。」
65. 酪農体験活動をした時の、「牛のにおいが忘れられない。」	削除
67. 酪農体験活動をした時の、「牧場で飲んだ牛乳・食べたアイスクリーム等の味が忘れられない。」	削除
(体験者のみ) 69. 「牛乳や食べ物に感謝をしている。」	(体験者のみ) 46. 酪農体験活動をしたことで、「牛乳に感謝を感じている。」
なし	(体験者のみ) 47. 酪農体験活動をしたことで、「食べ物に感謝を感じている。」
(体験者のみ) 70. 「乳牛等、動物に感謝をしている。」	(体験者のみ) 48. 酪農体験活動をしたことで、「乳牛等、家畜に感謝をしている。」
(全員) 59. 酪農体験活動は「人間と動物の共生について考えられる」と思う。	(体験者のみ) 49. 酪農体験活動をしたことで、「人間と動物の共生について考えられた。」
(全員) 60. 酪農体験活動は「自然の循環(堆肥や牧草を上手く活用している)を知ることができる」と思う。	(体験者のみ) 54. 酪農体験活動をしたことで、「酪農体験活動をしたことで、自然の循環(堆肥や牧草を上手く活用している)を知ることができた。」
(全員) 57. 酪農体験活動は「責任のある、やりがいのある仕事について考えられる」と思う。	(体験者のみ) 56. 酪農体験活動をしたことで、「責任のある、やりがいのある仕事について考えられた。」
なし	(体験者のみ) 57. 酪農家の方と一緒にしたことで、人の役に立つことは気持ちいいと感じた。
なし	(体験者のみ) 58. 酪農体験活動をしたことで、社会に貢献することは気持ちいいと感じた。
なし	「その他、酪農体験活動で印象に残っていることがありましたらご記入お願いします。」

表 2 体験者と非体験者を対象とした質問項目の因子分析
回転後の成分行列^a

	成分						
	1	2	3	4	5	6	
31. 食べ物感謝	.745	.055	-.147	.047	.028	.035	6 自分に生かされる
32. 人感謝	.622	.284	-.137	.084	.009	.123	
21. 酪農家おだやか	.564	.112	.091	.199	-.092	-.162	4 酪農家
36. 感じ考える	.538	.216	.021	.065	.370	.217	6 自分に生かされる
30. 残さず食べる	.536	-.072	-.201	.032	-.265	.150	
34. 命大切	.518	.042	-.156	.290	.251	-.029	
23. 酪農家ありがたい	.482	.266	.170	.103	.337	.277	4 酪農家
22. 酪農家大変	.225	.748	.167	-.084	-.036	-.009	4 酪農家
24. 仕事大変	.263	.707	.131	.016	.052	-.072	
25. 仕事難しい	-.061	.698	-.114	.077	.082	.145	
14. 牧場楽しい	.054	.558	-.287	.391	.258	.067	2 牧場
15. 牧場汚い	-.052	.100	.812	-.119	-.124	-.069	2 牧場
19. 乳牛汚い	-.121	.257	.730	.072	-.141	-.088	3 乳牛
13. 牧場くさい	.054	-.160	.653	-.341	-.126	-.065	2 牧場
18. 乳牛こわい	-.359	-.116	.556	.325	.001	-.049	3 乳牛
33. 動物親しみ	.152	.355	-.450	.107	.074	.226	6 自分に生かされる
28. 意味がある	.084	-.024	-.087	.792	-.156	.265	5 今後
27. 仕事やりがいがある	.308	.369	.028	.593	.102	.148	4 酪農家
29. させたい	.185	-.102	-.149	.589	.239	.220	5 今後
26. 仕事楽しい	.168	.526	-.034	.526	.148	-.046	4 酪農家
16. 牧場落ち着く	.065	.167	-.018	.466	.371	-.022	2 牧場
17. 乳牛かわいい	-.109	.141	-.256	-.003	.728	.233	3 乳牛
20. 乳牛癒される	-.101	-.036	-.190	.068	.727	.236	
35. 自然体験好き	.253	-.008	.085	.445	.582	-.112	6 自分に生かされる
37. 優しく接する	.341	.259	-.315	.141	.510	.009	
11. 牛乳あたたかみ	.082	.107	-.113	.164	.173	.896	1 牛乳
12. 牛乳やさしさ	.102	.004	-.171	.174	.143	.866	

因子抽出法：主成分分析

回転法：Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

a. 8 回の反復で回転が収束しました。

※ 全体に網をかけた項目 (22, 24, 28, 30, 36 は天井効果見られた項目)

表 3 体験者と非体験者対象質問項目の信頼性

	信頼係数	全体信頼係数
因子 1	0.74	0.86
因子 2	0.68	
因子 3	0.73	
因子 4	0.71	
因子 5	0.72	
因子 6	0.92	

人数と否定的な反応をした人数の分布に差が見られるのかを分析したその結果が表 5 である。

表 5 から以下のことが言える。体験群と非体験群との間で、肯定的な反応をした人数と否定的な反応をした人数の分布にカイ二乗検定を行った結果、5 パーセントの危険率で質問項目 11, 12, 15, 17, 19, 33, 37 の 7 項目に有意な差が見られた。

有意な差が見られた質問項目 11, 12, 15, 17, 19, 33, 37 の 7 項目について、肯定的な反応と否定的な反応をした人数に差が見られるのかを危険率 5 パーセントでカイ二乗検定したところ表 6 のような結果がえられた。

この表 6 の結果から、以下のことがいえる。

項目 11「牛乳にアタタかみを感じる」と項目 12「牛乳はやさしさを感じる」に関しては、以下のようであった。体験者は肯定的な反応が否定的な反応よりも有意に人数が多かった。非体験者は否定的な反応が肯定的な反応よりも有意に人数が多かった。

項目 17「乳牛はかわいい」に関しては、以下のようであった。体験者は肯定的な反応が否定的な反応よりも有意に人数が多かった。非体験者は肯定的な反応と否定的な反応をした人数に有意な差が見られなかった。

項目 19「乳牛は汚い」に関しては、以下のようであった。体験者は否定的な反応が肯定的な反応よりも有意に人数が多かった。非体験者は肯定的な反応と否定的な反応をした人数に有意な差が見られなかった。

項目 20「乳牛に癒やされる」に関しては、以下のようであった。体験者は肯定的な反応が否定的な反応よりも有意に人数が多かった。非体験者は肯定的な反応と否定的な反応をした人数に有意な差が見られなかった。

項目 24「仕事は大変」、項目 33「動物に親しみをを感じる」、項目 37「優しく接したい」に関してはい

ずれも以下のものであった。体験者、非体験者いずれも肯定的な反応が否定的な反応よりも有意に人数が多かった。ただし、中間的な反応をした人数に体験者と非体験者で差が見られた。

5 まとめと結果の含意

本研究の目的は、2 で設定した、子ども時代、または、以前に酪農体験活動を行った人を対象としてアンケート調査を実施し、現在の自分は酪農体験活動を行ったことでどのような影響を受けているのか、また、どう活かしているのかなどを「食と命」、「キャリア（生き方）」の面から調査し、酪農体験活動の教育的効果を明らかにする。そのために、酪農体験活動が食、命、生き方の視点からいかなる意義があるのかを調査する質問紙を開発することを目的とする。

このため、酪農体験活動を行ったことがある酪農体験活動経験者と酪農体験活動を行っていない同じ世代の大学生を対象とした質問紙調査を実施した。その結果は次のようになった。

(1) 開発した質問紙は構成概念妥当性があると考えられる。また、質問紙全体及び各因子について信頼性はあると考えられる。

(2) 酪農体験活動体験者と同非体験者に関して違いが見られ、特に 8 つの質問項目に関しては体験者と非体験者との判別性が強く見られた。

ここで、これらの結果の含意を考える。

結果 (1) は、開発した質問紙が妥当性と信頼性があることを示している。

結果 (2) は、次の様に考えられる。この結果は、以下のように考えられる。

項目 11「牛乳にアタタかみを感じる」と項目 12「牛乳はやさしさを感じる」に関しては、以下のようであった。体験者は肯定的な反応が否定的な反応よりも有意に人数が多かった。非体験者は否定的な反応が肯定的な反応よりも有意に人数が多かった。このことから、過去に酪農体験活動を体験している人は、「体験していない人に比べて牛乳に対してよいイメージを持っていることが考えられる。

項目 17「乳牛はかわいい」に関しては、以下のようであった。体験者は肯定的な反応が否定的な反応よりも有意に人数が多かった。非体験者は肯定的な反応と否定的な反応をした人数に有意な差が見られなかった。このことから、過去に酪農体験活動を体験した人は、乳牛に関してもよいイメージを強く

表 4 体験者と非体験者との各質問項目への肯定的・否定的・中間的な反応への人数分布の違い

		肯定人数	否定人数	中間人数	χ^2 値	確率
11. 牛乳あたたかみ	体験者	26	13	18	17.99	0.00
	非体験者	5	26	13		
12. 牛乳やさしさ	体験者	31	12	14	13.98	0.00
	非体験者	10	24	10		
13. 牧場くさい	体験者	31	14	12	6.731	0.04
	非体験者	33	9	2		
14. 牧場楽しい	体験者	42	4	11	1.78	0.41
	非体験者	27	4	13		
15. 牧場汚い	体験者	12	20	25	12.29	0.00
	非体験者	23	13	8		
16. 牧場落ち着く	体験者	28	7	22	2.571	0.28
	非体験者	16	10	18		
17. 乳牛かわいい	体験者	39	7	11	5.13	0.07
	非体験者	21	12	11		
18. 乳牛こわい	体験者	6	43	8	0.80	0.67
	非体験者	7	30	7		
19. 乳牛汚い	体験者	3	39	15	9.14	0.01
	非体験者	10	19	15		
20. 乳牛癒される	体験者	26	6	25	2.90	0.00
	非体験者	16	10	18		
21. 酪農家おだやか	体験者	35	6	16	1.84	0.40
	非体験者	22	4	18		
23. 酪農家ありがたい	体験者	52	1	4	1.36	0.51
	非体験者	38	0	5		
25. 仕事難しい	体験者	49	3	5	0.21	0.90
	非体験者	37	2	5		
26. 仕事楽しい	体験者	31	6	20	0.16	0.92
	非体験者	23	4	17		
27. 仕事やりがいがある	体験者	46	1	10	0.24	0.89
	非体験者	33	1	9		
29. させたい	体験者	45	1	11	1.59	0.45
	非体験者	32	0	12		
31. 食べ物感謝	体験者	49	1	7	1.01	0.60
	非体験者	35	2	7		
32. 人感謝	体験者	51	1	5	0.66	0.72
	非体験者	37	1	6		
33. 動物親しみ	体験者	47	2	8	6.85	0.03
	非体験者	28	8	8		
34. 命大切	体験者	41	3	13	1.05	0.59
	非体験者	3	1	13		
35. 自然体験好き	体験者	49	3	5	3.09	0.21
	非体験者	32	3	9		
37. 優しく接する	体験者	41	1	15	4.57	0.10
	非体験者	26	5	13		

表 5 体験者と非体験者との各質問項目への肯定的・否定的な反応への人数分布の違い

		肯定人数	否定人数	χ^2 値	確率
11. 牛乳あたたかみ	体験者	26	13	17.89	0.00
	非体験者	5	26		
12. 牛乳やさしさ	体験者	31	12	13.89	0.00
	非体験者	10	24		
13. 牧場くさい	体験者	31	14	1.05	0.31
	非体験者	33	9		
15. 牧場汚い	体験者	12	20	4.72	0.03
	非体験者	23	13		
17. 乳牛かわいい	体験者	39	7	4.70	0.03
	非体験者	21	12		
19. 乳牛汚い	体験者	3	39	8.57	0.00
	非体験者	10	19		
20. 乳牛癒される	体験者	26	6	2.79	0.10
	非体験者	16	10		
24. 仕事大変	体験者	57	0	.	.
	非体験者	42	0		
33. 動物親しみ	体験者	47	2	6.58	0.01
	非体験者	28	8		
37. 優しく接する	体験者	41	1	4.47	0.04
	非体験者	26	5		

表 6 体験者、非体験者それぞれの肯定的な反応と否定的な反応をした人数の差の検討

		肯定人数	否定人数	χ^2 値	確率
11. 牛乳あたたかみ	体験者	26	13	4.33	0.04
	非体験者	5	26	14.23	0.00
12. 牛乳やさしさ	体験者	31	12	8.40	0.00
	非体験者	10	24	5.77	0.02
15. 牧場汚い	体験者	12	20	2.00	0.16
	非体験者	23	13	2.78	0.10
17. 乳牛かわいい	体験者	39	7	22.26	0.00
	非体験者	21	12	2.46	0.12
19. 乳牛汚い	体験者	3	39	3.86	0.00
	非体験者	10	19	2.79	0.10
20. 乳牛癒される	体験者	26	6	12.50	0.00
	非体験者	16	10	1.39	0.24
24. 仕事大変	体験者	57	0	57.00	0.00
	非体験者	42	0	42.00	0.00
33. 動物親しみ	体験者	47	2	41.33	0.00
	非体験者	28	8	27.13	0.00
37. 優しく接する	体験者	41	1	39.00	0.00
	非体験者	26	5	14.23	0.00

持ち続けていることが考えられる。

項目 19「乳牛は汚い」に関しては、以下のようであった。体験者は否定的な反応が肯定的な反応よりも有意に人数が多かった。非体験者は肯定的な反応と否定的な反応をした人数に有意な差が見られなかった。このことから、過去に酪農体験活動を体験した人は、項目 17 同様に乳牛に関してもよいイメージを強く持ち続けていることが考えられる。

項目 20「乳牛に癒やされる」に関しては、以下のようであった。体験者は肯定的な反応が否定的な反応よりも有意に人数が多かった。非体験者は肯定的な反応と否定的な反応をした人数に有意な差が見られなかった。このことから、過去に酪農体験活動を体験した人は、項目 17、19 同様に乳牛に関してもよいイメージを強く持ち続けていることが考えられる。

項目 24「仕事は大変」、項目 33「動物に親しみをを感じる」、項目 37「優しく接したい」に関してはいずれも以下のものであった。体験者、非体験者いずれも肯定的な反応が否定的な反応よりも有意に人数が多かった。ただし、中間的な反応をした人数に体験者と非体験者で差が見られた。

このことから、仕事の大変さ、動物への親しみ、優しく人や動物に接したいということに関しては、体験者と非体験者で大きな差は見られなかったものの中間的な反応を含めると体験者と非体験者との差が見られたことから、これらの項目に関しても体験者と非体験者とのわずかながらの差が見られていることが想定される。

酪農体験活動を行ってから 10 年近く経過した人でも、牛乳や乳牛に対してよいイメージを持ち続けていること、このことが食や命を意識して牛乳や牛などの動物と接していることが想定できる。酪農体験活動の一つの効果を示唆する結果を得られたともに、今後の酪農体験活動に関する調査を行う際の質問紙を開発することができたと言える。

〈参考文献〉

- 1) 羽豆成二, 我が国における「酪農教育ファーム」の成立とその教育的意義 (その 2), 帝京短期大学紀要 (15), 31-42, 2008.
- 2) 伍代正樹, 酪農教育ファーム, 酪農総合研究所, 2000.
- 3) 中央酪農会議, 中央酪農会議ホームページ, 酪農教育ファーム <http://www.dairy.co.jp/edf/gaiyo.html>, 2015 年 11 月 12 日閲覧
- 4) 鈴木由美子, 中野浩史, 酪農体験が生命尊重の価値観育成に与える効果についての実践研究, 学習開発学研究 (6), 11-18, 2013.
- 5) 木下博義, 秀島哲, 川崎弘作, 寺本貴啓, 松浦拓也, 角屋重樹, 酪農教育ファームを通して子供に育成される力に関する基礎的研究 - 大学生を対象とした調査をもとに -, 広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部 文化教育開発関連領域 (58), 11-17, 2009.
- 6) 森保友希, 酪農家の効果的な言葉がけ - 経験豊富な酪農家の実践をもとに -, 大妻女子大学家政学部児童学科卒業研究, 2011.

Summary

What kind of influence does the person who did dairy farming experience activity 10 years ago undergo by doing dairy farming experience activity? They investigated how it was being utilized for the life now. As a result I make it clear what kind of educational effect dairy farming experience activity has from vanity and the side of "appetite and the life" and "life-style". This research is here for developing the questionnaire which investigates the educational significance of the dairy farming experience activity. So it was investigated using the questionnaire which has been developed targeted for the person who has the experience which did dairy farming experience activity so far in 2012 and the person who has not performed dairy farming experience activity in the same generation. As a result, the difference was seen by a person with experience and an inexperienced person of dairy farming experience activity in consciousness to milk and consciousness to a pasture and a cow.

資料 1 本調査質問紙

こんにちは。大妻女子大学児童学科 4 年の〇〇〇〇と申します。
 私は卒業研究で「酪農教育」について調べています。
 お忙しいと思いますが、アンケートにご協力お願いします。(とても長くてごめんなさい。)

◎あなたについて教えてください。 お名前 ()
 () 才 男 ・ 女

1. 酪農体験をしたことがありますか。 ある-----ない

1. でないと答えた方は 7. (次のページ) へ進んでください。

1. であると答えた方は 2.~6. をお答えをお願いします。

◎該当するものに○をお願いします。

◇何を体験しましたか。また体験回数を教えてください。

- えさ作り 1 回 2 回以上
- 給餌 (えさをあげる) 1 回 2 回以上
- 牛舎の掃除 1 回 2 回以上
- ブラッシング 1 回 2 回以上
- 子牛の飼育 1 回 2 回以上
- 子牛の哺乳 1 回 2 回以上
- 搾乳 (乳搾り) 1 回 2 回以上
- バター・アイスクリーム作り 1 回 2 回以上
- 心音を聴く 1 回 2 回以上
- 酪農家の仕事について知る 1 回 2 回以上
- 出産 1 回 2 回以上
- その他 () 1 回 2 回以上

2. どの体験が一番印象に残っていますか。

1. の項目から**該当する番号を選んでください。** 【 】

3. いつ体験しましたか。(複数回答可)

小学校入学前 小学生 (1~3 年) (4~6 年) 中学生 高校生 それ以降

4. 酪農体験以前は動物が好きでしたか。

非常に好き 好き 普通 あまり好きではない 嫌い わからない

5. 酪農体験以前は牛乳が好きでしたか。

非常に好き 好き 普通 あまり好きではない 嫌い わからない

6. 現在動物が好きですか。

非常に好き 好き 普通 あまり好きではない 嫌い

7. 過去に動物を飼っていましたか。また現在、飼っていますか。(複数回答可)
犬 猫 魚 ハムスター 昆虫 ザリガニ その他< > 飼っていない
8. 現在、牛乳が好きですか。
非常に好き 好き 普通 あまり好きではない 嫌い
9. あなたの目の前に、牛乳・水・お茶・ジュース・野菜ジュースがあつたら何を選びますか。
牛乳 水 お茶 ジュース 野菜ジュース
10. 牛乳をどのくらいの頻度で飲みますか。
毎日 2～3日に1回 1週間に1回 ほとんど飲まない 全く飲まない

◎牛乳についてどのようなイメージを持っているかお聞きします。

11. 牛乳を飲むと「あたたかみ」を感じる。
非常にそう思う そう思う どちらとも言えない そう思わない 全くそう思わない
12. 牛乳を飲むと「やさしさ」を感じる。
非常にそう思う そう思う どちらとも言えない そう思わない 全くそう思わない

◆その他、牛乳について何かイメージをお持ちでしたらご記入お願いします。

<

>

◎牧場についてどのようなイメージを持っているかお聞きします。

13. 牧場は「くさい」と思う。
非常にそう思う そう思う どちらとも言えない そう思わない 全くそう思わない
14. 牧場は「楽しい」と思う。
非常にそう思う そう思う どちらとも言えない そう思わない 全くそう思わない
15. 牧場は「汚い」と思う。
非常にそう思う そう思う どちらとも言えない そう思わない 全くそう思わない
16. 牧場は「落ち着く」と思う。
非常にそう思う そう思う どちらとも言えない そう思わない 全くそう思わない

◆その他、牧場について何かイメージをお持ちでしたらご記入お願いします。

<

>

◎乳牛についてどのようなイメージを持っているかお聞きします。

17. 乳牛は「かわいい」と思う。
非常にそう思う そう思う どちらとも言えない そう思わない 全くそう思わない
18. 乳牛は「こわい」と思う。
非常にそう思う そう思う どちらとも言えない そう思わない 全くそう思わない
19. 乳牛は「汚い」と思う。
非常にそう思う そう思う どちらとも言えない そう思わない 全くそう思わない
20. 乳牛は「癒される」と思う。
非常にそう思う そう思う どちらとも言えない そう思わない 全くそう思わない

◆その他、乳牛について何かイメージをお持ちでしたらご記入をお願いします。

<

>

◎酪農家についてどのようなイメージを持っているかお聞きします。

21. 酪農家は「おだやか」だと思う。

非常にそう思う　そう思う　どちらとも言えない　そう思わない　全くそう思わない

22. 酪農家は「大変」だと思う。

非常にそう思う　そう思う　どちらとも言えない　そう思わない　全くそう思わない

23. 酪農家は「ありがたい」と思う。

非常にそう思う　そう思う　どちらとも言えない　そう思わない　全くそう思わない

◆その他、酪農家について何かイメージをお持ちでしたらご記入をお願いします。

<

>

◎酪農の仕事についてどのようなイメージを持っているかお聞きします。

24. 酪農の仕事は「大変」だと思う。

非常にそう思う　そう思う　どちらとも言えない　そう思わない　全くそう思わない

25. 酪農の仕事は「難しい」と思う。

非常にそう思う　そう思う　どちらとも言えない　そう思わない　全くそう思わない

26. 酪農の仕事は「楽しい」と思う。

非常にそう思う　そう思う　どちらとも言えない　そう思わない　全くそう思わない

27. 酪農の仕事は「やりがいがある」と思う。

非常にそう思う　そう思う　どちらとも言えない　そう思わない　全くそう思わない

◆その他、酪農について何かイメージをお持ちでしたらご記入をお願いします。

<

>

28. 子ども時代に酪農体験活動をすることに意味があると思う。

非常に意味があると思う　まあまあ　どちらとも言えない　そんなに　全く意味がないと思う

29. 将来自分が親になった時、子どもに酪農体験活動をさせたいですか。

絶対させたい　させたい　どちらとも言えない　させたくない　絶対させたくない

◆それはなぜですか。

<

>

★以上で全て終わりです。貴重なお時間をいただきまして、
ありがとうございました。ご協力感謝いたします！！！！